

挿し木、挿し芽で庭を豊かに

「花とみどりの学校」で実習

挿し木や挿し芽で庭をみどり豊かにと、このほど「花とみどりの学校」でバラやアジサイなどの挿し木、挿し芽の実習が行われました。

グリーンアドバイザーの上尾正美さんの指導でポットに鉢底石や鹿沼土などを入れ、アジサイ、マサキ、モッコウバラ、ガザニアから切り取った挿し穂をつぎつぎ植えつけました。この状態で自宅へ持ち帰り土の表面が乾いたら水をやる。2か月ほどたち、ポットの底から根が見え始めると鉢に植え替えたり地植えするという段取りです。液肥を濃くやり過ぎると枯れてしまうこともあるそうです。

「最初の施肥は液肥原液を2000倍くらいにうすめた、いわば「離乳食」から始めてください」というのが上尾さんのワンポイントアドバイスです。約20人の生徒さんが受講しましたが、その1人、Mさんは「マンションの16階に住んでいますのでみどりを増やすなんて初体験です。うまくいくかドキドキしたりときめいたりです」とおっしゃっていましたが、今頃は青々した鉢がベランダに4つ並んでいることでしょう。



あの公園・あの庭は、いま…⑦ シリーズ

外院2の中村紀子さん方はちょうど10年前に「箕面市花とみどりの街角表彰」で奨励賞を受けています。いまも玄関先の花鉢がきれいに咲き揃っています。ひとくわ目につくのは真っ赤なクジャクサボテン（左写真の円内）。月下美人の仲間だけあり、直径10cmほどの花が夜中も4つ5つ開いていました。このほかベゴニア、ゼラニューム、カポックなど季節の花々がひしめくように並んでいます。

アジサイ50鉢 邸宅ぐるり囲む



青松園で鉢植えのアジサイが邸宅を囲むようにおよそ50鉢も並んでいました。育てているのは柏原順子さん（石丸3）。アナベルなど白、赤、紫、青、紺の5～6種類が6月中旬に一斉に花ひらきました。うわさを聞いて池田市から見に来るアジサイファンもいるそうです。「ちょっと多すぎるのでここ4、5年、デイサービスなどの施設や小学校、ご近所にお分けしています」とのことです。

市内で白いヒガンバナは時々見かけますが、黄色はちょっと珍しいようです。

街角に咲く黄色いヒガンバナ



桜ヶ丘 1

コナラ、シイ、カシなど、ドングリの木を枯らせる「ナラ枯れ」が山から平野部にも広がり始めています。

なかでも広い鎮守の森をかかる阿比太神社（桜ヶ丘1）がこの“伝染病”防止にいま懸命に取り組んでいます。

「ナラ枯れ」はカシノナガキクイムシ（櫻の長木食い虫＝カシナガ）が媒介するナラ菌により樹木が枯死するもので、箕面市では5～6年前に山間部で被害が出はじめ、いまでは瀬川の森や箕面東公園、豊川支所付近の関電敷地内などにも広がっています。

カシナガは木のなかに侵入すると分泌物で仲間を呼び寄せる習性があります。このためナラ枯れにかかった木は根元付近に粘着テープなどを巻き、カシナガを封じ込めてしまわねばなりません。

約4300m²の鎮守の森をかかる阿比太神社とすぐ北の連続樹林・阿比太公園でもこの間合させて10本が被害にあっているのがわかりました。神社では昨年来、枯死した3本を伐採したほか枝払いやテープ巻きをするなど

「ストップ・ザ・ナラ枯れ」に懸命に取り組んでいます。

内藤景治宮司は「伐採用の重機を入れられないところもあり、神社だけの取り組みには正直限界があります。山林には国の助成がありますが、平野部にはありません。“樹木の伝染病”なら、ぜひ自治体ぐるみ国ぐるみで取り組んでいただきたいものです」と苦衷の胸の内を明かしていました。

◆被害にあった木を点検する内藤宮司

ストップ・ザ・ナラ枯れ



粟生外院 2

春のバラ祭は 「ベルサイユのばら」

5月に行われた粟生外院バラ祭は2日間で約850人が訪れ、「アンヌの思い出」「リリー・マルレーン」など色とりどりのバラに見とれていました。今年はゴールデンウイーク明けから気温が一気に上昇したせいで開花が早く、バラ祭当日の5月21、22日にはほぼ満開状態でした。テーマは「ベルサイユのばら」で、宝塚の大きな舞台写真や王妃マリー・アントワネットの生涯を説明したパネルに見入る人もいました。



またバラのぬり絵コーナーも設けられ、2日間でざっと30人のこどもたちが色鉛筆やカラーペンを走らせ思い思いのバラを描いていました。なかには真っ黒なバラや似顔絵交じりの花もありました。

秋バラは10月中、下旬が見ごろで花びらは春より少しづつですが色は鮮やかとのことです。オーナーの久保ノリ子さんは「オープンガーテンなので散歩がてらにのぞいてみてください」と言っておられます。

情報プランター

街角に咲く黄色いヒガンバナ

小野原東3丁目13の街角で、毎年9月半ば頃に黄色いヒガンバナの花が見られます。

「咲き初めは白いのですが、間もなくきれいな黄色になります」

「今年も咲いたら、玄関先に飾りますよ」

と育てている吉田さんは話します。

市内で白いヒガンバナは時々見かけますが、黄色はちょっと珍しいようです。

中村寿美子さん提供、一昨年撮影▶



石丸 3